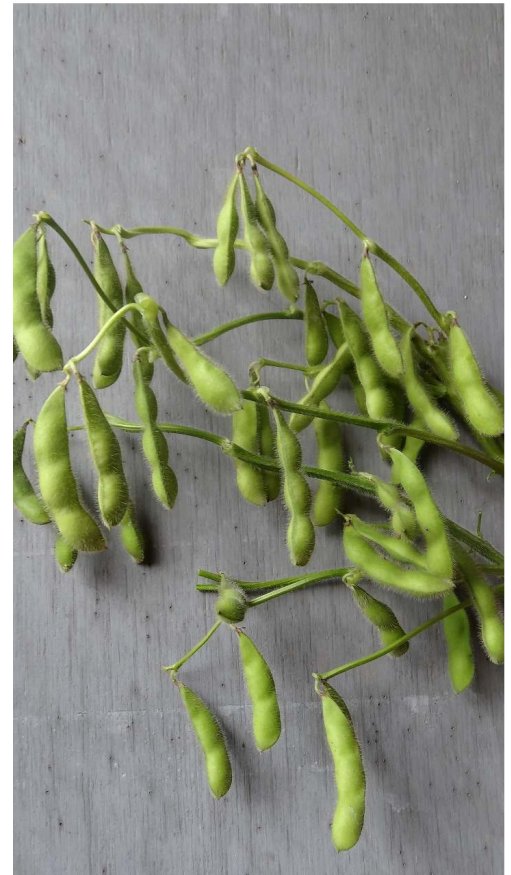


他者の息づかいを感じる

自分を取り戻す、よい方法は、自分から離れることですね。犬猫やら昆虫まで、ペットと呼ばれる、身近な異生物に見入るひと時、盆栽とか草木と語らうつかの間、人は安らいでいます。石ころをめぐる心も、理解できます。仕事や〇〇しなければ一辺倒で、他者を消し去る毎日に、自分を見失うのは、ヒトだけの病いのようです。

先週、同じ寄居町内の、Iさんの田植えが終わったばかりの谷津田を訪ねました。ホタルを拝見するためです。昨年もおじゃましたのですが、今年は、ついこの間までの日照りをしのいでの、光です。どこでどうしているのかわからぬ小さな者たちを想像しては心を配り、米を作り続けてきたIさんへ、「届いていたよ」との返礼です。守りたいもの、伝えたいことがまだこの世界にはあるのだと、あらためて思いました。あたりを見渡せば、多勢の、異種異類に取り囲まれているとき、自分を見失うこともありません。混ざり、溶け込む中で、ヒトは、他者に飲み込まれぬように、なすべきことをし、生きるすきまを維持する静かな営みを続けていくのだと思います。

カエルたちの鳴き声の中、のぼり、すべり降り、漂う、はかなく頼りなげな光の余韻は、今でも鮮明です。(晃)



未来につなぐ

さて、〇〇しなければに、四六時中忙殺されている感のある私には、上記のような心境に至るのは困難なのですが、ホタルは素敵でした。一緒に行った先輩は、「自分が子供の頃は、ホタル狩りが日課だった。いくらでもいた」と言っていました。自分も、けっこう田舎にいましたが、田んぼの傍の川は、「あぶく」だらけだったように記憶します。新興住宅街からの合成洗剤の排水のせいだったのでしょうか。高度成長と公害の時代でした。その方も、田んぼで農薬の空散が始まって、ホタルが消えた、と言っていました。

家事も、農業も、楽になったことは、確かです。でも、失くしてしまったことを、忘れ去られないうちに、伝えなくてはいけない、もうそのギリギリのところまで来ているのかも、と、ふとします。TPP(環太平洋経済連携協定)のことを学んでいく中で、恐ろしい未来の予感におののくようなことがあります。まだ間に合うのかなあ、ホタルが舞う「ふるさと」を残していけるのかなあ、と。

野菜のこと

夏野菜は、あまり出来がよくありません。乾燥が好きなスリップス(アザミウマ)という、アブラムシより微細な害虫が、日照りで大繁殖したのも原因の一つ。ナスやトマトの果菜や、葉物などの新芽を食害しています。今年のツバメの雛が少ないことも、アライグマが出てこないことも、日照りだったせいかもしれません。ものいわぬ者たちの気配に耳を澄ませることが、「道」を誤らないコツなのでしょうが、まだまだ修行が足りません。

(6月26日 泰子)



菜園「野の扉」 〒369-1214 埼玉県大里郡寄居町今市228-3 伊藤 晃・泰子

TEL/FAX 048-582-3645 E-MAIL nonotobira@ybb.ne.jp

ホームページ <http://nonotobira.typepad.jp/new/> ブログ <http://nonotobira.typepad.jp/blog/>